

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設番号	66-1206
施設名	東久留米おひさま保育園
施設所在地	東京都東久留米市幸町1-21-14
法人名	社会福祉法人おひさま会

1. 活動のテーマ

<テーマ>

自然

<テーマの設定理由>

自然豊かな園の環境を活かしテーマとして設定。自然は季節、天気などにより変化し日々姿を変えることから、多くの疑問や気づきに繋がると考えた。

2. 活動スケジュール

2026・4 畑の引っ越し
2026・5・1 芋の苗植え
2026・6 園庭の水たまり観察・砂の補充
2026・7 水遊び後の水はけの観察（どの部分に水がたまりやすいか調べた）
2026・10 いも掘り
2027・2 園庭の水はけ改善プロジェクト（全2回）

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

気温上昇に備え安全な探究活動の為に日陰のシェード設置。
園庭環境を子どもが安全に使用しながら探求活動を行う為の砂の補充
水はけに関わる観察に使用するタライの購入
植物の生育を観察するための畑の移設
園庭の水はけ改善プロジェクトで行った環境学習及び暗渠設置工事

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

畑の活動では、移設から子どもたちと共に作業を行い、芋の苗を植え、秋に収穫しいも煮会を実施した。
「水たまりが多くて雨の次の日に遊べない」という子どものつぶやきから、「どうすれば水たまりをなくせるか？」を考えた。中で「砂が足りない」という声が上がリ、園庭に砂の補充を行う。雨の少ない季節だったことから、プールやタライを使用して補充後の園庭の様子を観察した。その後のゲリラ豪雨などで、改善したように見えた水はけが再び悪化した為、水たまりマップを年長児が作成し専門家と共に考える環境学習を実施。暗渠の設営を手伝った。
その後の園庭の水はけがよくなり、喜ぶ姿が見られた。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

畑の活動では、畑に詳しい職員の指導の下、夢中で石や異物をよける姿が見られた。見学に来た乳児に対し、「こうするとおいしいお芋が出来るからね」と声を掛ける姿があった。水はけに着目したのは、小さな子が水たまりに落ちてしまう！という気づきから始まる。
「なぜ水たまりができるのか」という疑問は年長児が話し合い、砂が足りない、おひさまが足りない・・・など、様々な意見が出た。暗渠設置後には、水はけが改善し喜ぶ姿が見られた



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

難しい言葉を用いて話し合っている様子に、現代の子どもたちが得ている情報量に驚かされ子ども主導で探求していくことでさらに広がりを見せていく活動に保育者もワクワクした。
子どもが安全に観察できる環境設定は、子どもの探求心や主体性を育てていた。
また、水たまりや観察スペースの環境設定など、日々幼児が乳児を気遣う姿も多く見られ日頃の異年齢活動の意義が子どもたちに浸透していることが感じられた。

